

コラムW3

国語文法は伝統芸能？

8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
奈良	平安				鎌倉	室町			江戸		現代		
……素朴な言語認識……					…歌の「てにをは」…					語の類別 「てにをは」 活用 語句の照応		現代的 文法研究	
												構造	

現代的文法研究 今日私たちが国語文法と称しているような文法の研究は、江戸時代の諸研究をふまえて、明治時代から始まっています。明治時代以降、多くの文法家が出て、理論的研究をしてきました。その中から何人かの大文法家が出て、研究に大きな影響を与えました。

かな文法 しかし、その研究は江戸時代の研究をふまえていたので、いずれも「かな」を用いての研究でした。「かな」での研究では音素 (a, k, s など) は単位とならず、拍 (あ a, か ka, し si など) が単位となります。「読む」は yom-u と分析するのが正しいのですが、実際は「よ-む yo-mu」と分析され、「よ yo」が語幹で、「む mu」が「終止形語尾」であるとされます。すべての国語辞典がこのように扱っています。(私と同じくこれを恥ずかしいと思う日本人は何人いるのでしょうか。)

国語文法は素晴らしい文法？ すべての大文法家の学説は「かな」を用いているため、言語学とは異なる日本語独特の珍妙な文法になっていますが、国語学者は、日本語には言語学とは別の優れた国語文法があると錯覚し、信じきっています。(ただし、日本では、私の印象ですが、言語学者のほうも、競ってアメリカ等の新理論を導入しようとするばかりでした。その理論がどれほど日本の文法理論に貢献したのかは結果で知ることができます。)

記述のみで、説明はしない 現在のほとんどの国語研究者は、大文法家の学説を大事に守っています。その学説の枠内で、記述的に研究を行うばかりで、説明的な研究はしません。日本語が「どう」あるかの研究はしますが、「なぜ」そうあるかの研究はしません。できません。かなの「拍」が単位なので、自由度がないのです。

国語文法は伝統芸能？ 「国語文法」は科学ではなく、いわば「伝統芸能」です。科学なら、法則を発見すべく、方法を考え、体系的知識を求めたはずです。そうではなく、伝統芸能だからこそ、師匠の芸を尊重し、芸を修正しても師匠の意趣を逸脱しないものとしました。家元を代々正統的に受け継ぎ、守ってこそ、立派な弟子なのです。自身も権威に守られ、権威を示すことができます。文法は科学であり、伝統芸能ではないはずなのに、研究者の意識は伝統芸能的です。